

さわび 埼玉王

สมาคมมิตรภาพ ไทย-บาอิตามะ

2017年5月
36号

発行

埼玉・タイ王国友好協会事務局
〒350-1188 川越市田町32-12
武州ガス(株)内 ☎049-247-5428

埼玉・タイ王国友好協会会報

URL: <http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

平成28年度 新規奨学支援生徒近況報告

平成29年2月、当協会会員で
現地滞在者である堀田繁氏に、
昨年奨学資金を授与した支援生
徒3名ガン・ピラカン君（パー
イ・ウィタヤコム校・高校1
年）、シリヤー・ノイムンさん
（同校・高校1年）、ポンラダー
・パヤポンさん（ラーチャプラチ
ヤ・ヌグロ校・高校1年）の近

況を確認するため、メーホンソ
ン県パーイ郡メーピン幼小中校
においてジラポン校長同席のも
と、各生徒と面談を実施してい
ただきました。

ガン君とシリヤーさんの通う
学校は、郡内高校であり、入学
後、多くの課外活動を経験する
など、有意義な学業生活を送っ
たとのことでした。

また、ポンラダー
さんの通う学校は山
間部にあり、ほとん
どの生徒が寄宿舎生
活をしており、勉学
はもちろん、朝晩の
食事の準備や、学校
や寄宿舎の清掃など
も行っているそうで
す。

三人はとても真面
目にこの一年を過ご
し、北部地域の先生
になる夢を実現する
ため二年生に進学後
は、さらに勉学に励
み、課外活動にも積
極的に参加するとい
う意気込みが確認で
きました。



▲メラダーさん（左）とジラポン校長

他方、教員免許取得のための
学費を支援したメラダー・ブン
シーさんは、メーホンソン県の
教員試験を受験する予定で、北
部山間部の学校を希望している
そうです。

メーピン校のジラポン校長は、
相変わらず精力的に教育基盤の
拡張と質の向上に尽くされてお
り、以前、私費で5人の臨時教
員を採用していましたが、さら
に一人加えて体制の充実を図っ
ていました。

平成27年に当協会が寄贈した
メーピン校校舎は、現在もきれ
いに利用されており、児童の学
業の質も向上したため、児童が
受章する表彰も増えたそうです。
この新規人材育成支援によっ
て育った生徒が、将来、北部山
岳地域で教育関係の仕事に就き、
活躍してくれることを期待して
います。



▲メーピン校教室の様子



▲メーピン校校舎外観



▲堀田繁氏（左）とジラポン校長

ワチラーロンコーン新国王御即位



▲ワチラーロンコーン新国王

2016年12月1日、ワチラーロンコーン新国王が即位され、チャクリ王朝10代目の国王（ラマ10世）となりました。これにより、在位70年に及んだ前国王陛下の御逝去50日目に王位継承が完了しました。

ワチラーロンコーン新国王陛下はプミポン前国王陛下とシリキット王妃陛下の長男として1952年7月28日にバンコクでお生まれになり、1972年12月に前国王陛下から王位継承権を与えられ、皇太子殿下となりました。オーストリアやイギリスで軍事などを学ばれ、1975年タイ陸軍に御入隊、現在は陸海空3軍で大将のお肩書をお持ちです。皇太子殿下時代は親王陛下が御留学中のドイツで過ごされることも多く、外国経験は豊富でいらっやいます。また、新国王陛下は新憲法案へ

2016年10月13日	プミポン前国王陛下御逝去
11月8日	政府が新憲法案を王室に提出
12月1日	新国王が即位を御表明
2017年1月10日	暫定首相が新国王陛下の憲法案修正御要請を公表
2月17日	政府が修正憲法案を王室に提出
3月5日	新国王陛下が天皇皇后両陛下と御会見
4月6日	新国王陛下が憲法案に御署名、公布・施行
10月半ば以降	前国王陛下の国葬、新国王戴冠式

署名され、公務代行者の摂政を置かずに国王陛下がタイ国外にお出になられるように修正されました。暫定議会の幹部の一人は、「現代の通信手段を使えば国を離れていても公務はできる」と、新国王陛下が国外御滞在中も御公務を担われることに理解を示しています。

50年近く国内にとどまられた前国王陛下とは異なり、外国経験が豊富な新国王陛下が王室外交をどう発展なさるか注目されています。

天皇皇后両陛下、プミポン前国王陛下を御弔問

天皇、皇后両陛下は、プミポン前国王陛下を弔問されるため、3月5日、バンコクを御訪問されました。両陛下は同日夜、タイ王宮で、前国王陛下の御遺体が安置された祭壇の前に礼拝し、供花されました。続いて前国王陛下の肖像画が掲げられた別室で御記帳後、宮殿においてワチラーロンコーン新国王陛下と会見し、弔意を示されました。

これに先立ち、両陛下が御宿泊先のホテルに到着された際には、前国王陛下の次女で新国王陛下の妹君のシリントン王女殿下がホテルで両陛下を出迎えられ、自ら花束を渡し、歓迎の意を示されました。また、王宮前では多くの市民が両陛下の御到着を待っていました。

タイ王室と日本の皇室の交流は長く、天皇皇后両陛下、皇族方は50年以上にわたり、家族ぐるみの親交を

重ねてこられました。

プミポン前国王陛下は1963年（昭和38年）に来日され、昭和天皇、香淳皇后と面会。翌年には皇太子殿下、妃殿下時代の両陛下がタイを公式訪問されています。この際、前国王陛下から農村の食糧難について相談を受けた天皇陛下は、繁殖力の強い魚であるティラピアの養殖を勧められ、今では貴重なタンパク源として、一般家庭の食卓に並ぶ魚になりました。

昭和天皇の大喪の礼、陛下の即位の礼には、当時のワチラーロンコーン皇太子殿下がご臨席。両陛下が御即位後初の外国訪問先に選ばれたのもタイでした。さらに前国王陛下の即位60周年記念式典への招待を受け、両陛下はタイを再訪され、前国王陛下と再会されました。



▲天皇、皇后両陛下のご弔問の様子

◎代表撮影／毎日新聞社提供

プミポン前国王陛下は、貧しい農村地域をくまなく歩き、「王室プロジェクト」と呼ばれるさまざまな援助事業を実施されていきました。両陛下と前国王陛下、王妃陛下は、単に同世代というにとだけではなく、このように国民と積極的に交流し、心を寄せるという共通点もあり、長く交流を深められてきました。

バンコク 今事情

国王陛下御崩御と タイの人々の優しさ

りそな銀行バンコク駐在員事務所 所長 八木 英行 様



当協会オブザーバーの埼玉りそな銀行県庁支店鈴木俊太郎支店長にご協力いただき、りそな銀行バンコク駐在員事務所の八木英行所長にバンコクの現在の様子をレポートしていただきました。

2016年10月13日はタイの人々にとって忘れることのできない最大の悲しみの日となりました。タイ国民が深く敬愛するプミポン・アドゥンヤデート前国王陛下が御崩御された日です。心より哀悼の意を表します。

御崩御された日よりタイ社会は服喪期間に入りました。政府関係者や公務員は一年間、民間企業や一般国民にも一ヶ月の服喪期間が設定され、町中の人が黒い服を着て前国王陛下の御崩御を悼みました。黒い服を持っていない人はリボンで喪章を作り肩や胸に付け、哀悼の意を示しました。国中が黒一色になったと言っても過言ではありません。街にある電子広告も白黒の前国王陛下を悼むものへ変更され、街にあるフリーペーパーの表紙も白黒、タイの主要企業のホームページも白黒、衣料品店の



▶衣料品店のショーウィンドウ内で黒い服を着ているマネキン

マネキンも黒い服を着ていました。

また、数日後には前国王陛下が安置されている王宮で一般国民の記帳が始まりました。これにはタイ全土より何十万という人が毎日記帳に訪れました。記帳者が王宮へ行くために市内には無料のバスが走り、王宮の最寄り駅やバスターミナルからはボランティアのバイクタクシーが無料で送迎を行っていました。タイでは遠方から来た人をもてなす習慣があり、王宮周辺の公園が解放され、無料で飲み物、食べ物が振る舞われていました。

今回の御崩御に關し、タイの国民全体が前国王陛下へ哀悼の意を示し、

この悲しみを皆で乗り切って行こうとする姿に日本人である私も深く感動いたしました。

御崩御日より半年近く経過し、現在のタイ国内は徐々に落ち着きを取り戻しています。民間企業や一般人では黒い服もかなり減ってきました。自粛されていたコンサートや新車発表会、パーティー等も100日を過ぎたあたりから開催されています。新国王に即位されたワチラーロンコーン新国王陛下の肖像画も街やオフィスに飾られ始めました。

3月6日には天皇陛下、皇后陛下がバンコクへ御弔問に訪れ、ワチラーロンコーン新国王陛下とも会見されました。前国王陛下とは言え、両陛下が正式な葬儀以外に御弔問に訪れられるのは異例のことです。今回、改めてタイと日本の強い結びつきを思い知らされました。タイで働く者として、そのようなタイ王国とタイの人々のために微力ながら貢献したいと思う今日この頃です。



▲記帳に訪れているタイ国民の様子

タイ工業副大臣

「タイ経済セミナー」で講演

昨年12月16日、タイ工業省と埼玉県、及び埼玉りそな銀行外主催の「タイ経済セミナー」が開催され、県内企業などから約150人が参加しました。セミナーでは、タイのポーンチャイ・トラクーンワラノン工業副大臣が講演し、県内企業関係者にタイへの投資を呼びかけました。

な経済政策「タイランド4.0」を紹介し、「ロボットや医療など5つの新産業を含む10分野の重工業で最新の技術を導入し、革新を起こして国際競争力を高めていく」と説明。日本について「ビジネスにとどまらない真のパートナー。日本の技術を取り入れ、産業を成長させたい」と述べ、タイでの事業展開を呼びかけました。



▶講演をするポーンチャイ・トラクーンワラノン工業副大臣（左）



▶経済政策「タイランド4.0」の説明

埼玉・タイ王国友好協会からのお知らせ

第18回 タイ・フェスティバル2017

今年のテーマは

日・タイ修好130周年

入場無料 5月13日(土) 14日(日)

10:00

20:00

代々木公園
イベント広場



ぜひご参加ください



昨年のタイ・フェスティバルの様子

第19回総会開催

下記の要領で総会を開催します。

バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使のご講演を予定していますので、ぜひご出席ください。

・日時 平成29年7月6日(木)

15:30~17:00

総会・講演会

17:00~18:30

懇親会

・場所 川越東武ホテル

川越市脇田町29-1

☎049-225-0111



▲昨年の懇親会での大使閣下と原会長



▲昨年のバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使のご講演

日タイ修好130周年記念特別展

東京国立博物館 平成館(上野公園)

会 期：2017年7月4日(火)~8月27日(日)

開館時間：9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで)

(ただし、金曜・土曜は21:00まで、日曜および7月17日(月・祝)は18:00まで開館)

※入館は閉館の30分前まで)

休館日：月曜日 (ただし、7月17日(月・祝)・8月14日(月)は開館、7月18日(火)は閉館)

HP：http://www.nikkei-events.jp/art/thailand/

今年(2017年)は日タイ修好130周年にあたります。この節目の年に修好記念事業として展覧会を開催します。

タイでは、仏教は人々の暮らしに寄り添う大きな存在であり、長い歴史のなかで多様な仏教文化が花開きました。本展では仏教国タイについて、タイ族前史の古代国家、タイ黎明期のスコータイ朝、国際交易国家アユタヤー朝、現王朝のラタナコーシン朝における仏教美術の名品を通じて、同国の歴史と文化をご覧いただきます。また、日本とタイの交流史についても合わせて紹介します。

「タイ~仏の国の輝き~」



仏陀坐像

スコータイ時代 15世紀
サワンウォーラーナーヨック国立博物館



騎象仏陀三尊銀像

ラーンナータイ様式
20世紀
ハリブンチャイ国立博物館

編集後記

●プミポン前国王陛下御崩御の自粛ムードも少しずつ緩和され、タイの活気ある日常が戻りつつあります。日タイ修好130周年を迎えてさらなる友好を期待しています。

●記念すべき節目の年、ますますタイ王国の良さが感じられる一年になりそうです。

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/

・会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118
(武州ガス城内)